

正誤表

万全を期して作成したつもりですが，初版で既にいくつか間違いのご指摘をいただいております。ご指摘に御礼申し上げ，また，ここにお詫びして修正をご報告いたします。

page 誤	正	解説
p.6 R コード n ← 2500	n <- 25	テキストでは $n = 25$ の例として示していましたが，コードは続く $n = 2500$ の例を実行するものになっていました。
p.10 わかりやすく (下 書ける書籍 か ら 5 行 目)	わかりやすく書 いている書籍	
p.18 B は A と同 じく x を 3 列 2 行に	B は A と同じく x を 3 行 2 列に	row は行，col は列です。失礼しました。
p.18 R の出力の要 素が全て 0 に なっている	1 から 24 まで の数字が順に入 ります。	array 関数が配列を指定するものです。
p.26-出力 27	コード	右肩に「出力」と書かれているブロックは、「コード」が正しいです。
p.35-出力 36	コード	右肩に「出力」と書かれているブロックは、「コード」が正しいです。
p.40 決して実行し ないでくださ いのコード	変更なし	R ではカウンタ変数は別途割り当てられるので，永久ループにはならないそうです。しかしプログラミング言語として，一般的に避けるべき作法です。
p.41 R が永遠の計 算ループから 抜け出せなくな ります。	抜け出せなくな ることはありませんが，おかし な挙動になります。	両方 i で回すと，内側の i ループが外側の i ループ分繰り返されるという動きになります。

page 誤	正	解説
p.104R コード最後 の行内 df(line_x,df1 = nu_1, df2= nu_2)	df(line_x,df1 = 1, df2= nu)	これに伴い、図 3.29 の曲線もわず かに変化します（ヒストグラムに 変化はありません）。
P.134R コード var_p	var_p()	R のネイティブパイプは、関数 () の形に渡すことが必要です (magrittr のパイプ演算子 %>% であ れば問題ありません)
P.142 サンプルサイ 本 ズ n が 4、 文 10、100 と大 下 きくなるにつ か れて ら 3 行 目	サンプルサイズ n が 4、20、100 と大きくなるに つれて	
P.143 図 4.14		誤った画像ファイルが挿入されて いました。コードを実行して出力 される図が正しいです
P.182R コード	cor.test(dat_obs t.test(sample_id)\$dat_obs[1:20 2])\$conf.int[1:2]	出力も [1] 0.3787639 [2] 0.8187475 となります。
P.181 パーセンタイ ル信頼区間の 方が広くなっ ています。	今回はパーセン タイル信頼区間 の方が狭くなっ ています。	ここは一般的に狭くなるわけでは ないので。
P.182 Fisher の Z 変 換の上限 (0.4973) と 下限 (0.5011)	上限は 0.5897387, 下 限は 0.4217412	R のコード変更に伴って修正させ ていただきます。